

令和7年度(2025)アサンプション国際小学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

教育目標:「心身ともに、すこやかで愛に生きる子

～進んで学ぶ子、強く生きる子、神と人を愛する子～

1. 進んで学ぶ子

- (1) 基礎的基本的学力を身につける
- (2) 自分で考え判断する
- (3) 自分の考えを表現し、分かち合う

2. 強く生きる子

- (1) 基本的生活習慣を身につける
- (2) 強い心と体をつくる
- (3) 責任を持ち、自主的に行動する

3. 神と人を愛する子

- (1) 自分の良さや人の良さを認める
- (2) 思いやりを持ち、友だちを大切にする
- (3) 感謝の気持ちをもって喜んで働く
- (4) 自然を大切にする

2. 2025 事業計画

【理 念】学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す

CORE VALUES

Life	イキイキとエネルギーに生きる人
Truth	いかなる時でも真実を見極め、誠実に行動する人
Freedom	周りにながされず自分で判断し、自分らしく生きる人
Goodness	一人ひとりの善さを大切に、ポジティブに思考・発言・行動する人
Oneness	誠実・隣人愛・喜びの精神を大切に、多様性を認め、共に協働する人

【具体的な取り組みと評価】

(1) 授業力の向上

- ① 研究研修部が研究テーマを設定し、それに沿った教員研修を進める。研究授業では、全員参観を原則とし、事後研修会においても一人ひとりが発言しやすい手法を用いた研修を行う。
- ② PBL が特別な授業で使われる手法ではなく、日常的に取り入れられる学び方として全教員が認識することができるように定着させる。
- ③ iPad を「使う」ことから「使って何を考えるか」の授業に重点を置く段階へ移行していく。

(2) 英語力(イマージョン)強化

- ① モジュールタイムを確保することで英語に触れる機会を増やし、バランスよく英語力を向上させる。
- ② 定期的に会議の場を持つことで、イマージョン授業において PBL の授業を主体とするという意識統一を行う。
- ③ 中高のイマージョン部との連携し、中高との教員研修の場を持つなど更なる理解を深めていく。

(3) 学院的課題

- ① 幼稚園の園長推薦制のさらなる確立と内部保護者対象の説明会を実施し、内部進学希望者の増加に努める。
- ② 小学校の校長推薦制度の改革と中学校授業への体験を実施し、内部進学希望者の増加に努める。

(4) 宗教教育再生・強化

- ① 礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会を定期的に設ける。
- ② 新任教員に対する宗教教育実施を行う。

3.【自己評価アンケートの結果と分析】（2026 年 1 月実施）

保護者アンケート
<集計結果> ①学院の 5 つの Core Values 「Life,Truth,Freedom,Goodness,Oneness」を意識し、「豊かな心の教育」が実践できていましたか。 肯定 71% 否定 6% どちらでもない 23% ②学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」を礎に、宗教教育を中心とした児童の心を育てる教育が実践できていましたか。 肯定 73% 否定 7% どちらでもない 20% ③ユネスコスクールとしての活動が、学校内全体に浸透させることができていましたか。 肯定 71% 否定 8% どちらでもない 21% ④児童が主体的に取り組む奉仕活動において、フィードバックを行い、経験を深い学びにつなげるような取り組みができていますか。 肯定 76% 否定 6% どちらでもない 18% ⑤児童の基礎学力定着を意識して、日々の教育活動を進めることができていましたか。 肯定 64% 否定 9% どちらでもない 27% ⑥児童が個人の iPad を用意することで、教育的効果を上げるような授業ができていましたか。 肯定 62% 否定 17% どちらでもない 22% ⑦日々の授業の中で、児童が主体的に活動できる時間を十分確保できていましたか。 肯定 71% 否定 6% どちらでもない 23% ⑧本校の英語教育は、4 技能（話す・聞く・読む・書く）をバランスよく向上させる内容となっていましたか。 肯定 51% 否定 22% どちらでもない 27% ⑨本校の英語教育において、中高と連携して 12 年一貫教育のつながりが感じられましたか。 肯定 38% 否定 25% どちらでもない 37% ⑩モジュールタイムの導入により、英語に触れる機会が増え、定着につなげることができていますか。 肯定 50% 否定 18% どちらでもない 32% ⑪子どもたちの声に耳を傾けながら学級経営や教育活動が行われていると思われますか。 肯定 68% 否定 9% どちらでもない 23% ⑫挨拶や言葉遣いなど、様々な人とのつながりを意識した指導を、積極的に行うことができていましたか。 肯定 66% 否定 10% どちらでもない 24% ⑬学校行事や奉仕活動において、実施のねらいや目的を、学年に応じて児童に伝えることができていましたか。 肯定 72% 否定 5% どちらでもない 23% ⑭児童・保護者が感動できるような行事が実施できていましたか。 肯定 77% 否定 17% どちらでもない 6% ⑮小学校だよりを通して、学校の情報を発信できていると思われますか。 肯定 78% 否定 5% どちらでもない 16% ⑯学年通信・学級通信を通して、学年や学級の情報を発信できていると思われますか。 肯定 79% 否定 16% どちらでもない 5% ⑰アフタースクールやメアリーズクラスは、安心して預けられる環境になっていると思われますか。 肯定 78% 否定 1% どちらでもない 21% ⑱保護者が併設中学校・高等学校に興味を持てるような情報の発信を行うことができていましたか。 肯定 38% 否定 16% どちらでもない 46% ⑲学習ポータルサイトやブログを、効果的に活用できていましたか。 肯定 44% 否定 19% どちらでもない 38% ⑳HP に掲載されているブログを、どれぐらいの頻度でご覧になりましたか。 ほぼ毎日 1% 週に 1～2 回程度 8% 月に 1～2 回程度 30% 行事のタイミング 25% ほとんど見なかった 35%

(アカデミックコースへの質問)

A-1 本校のアカデミックコースは、イングリッシュコースとは違う魅力として感じられたものをお選びください。
(複数選択可)

(主な回答) 落ち着いた雰囲気 46% 集団としてのまとまり 54% 正しい日本語の定着 28% 主体的な活動 32%

(イングリッシュコースへの質問)

E-1 本校のイマージョン教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果があると感じられますか。

肯定 60% 否定 15% どちらでもない 25%

E-2 イマージョン教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。

*TT=チームティーチング(複数の教員がチームで指導をすること)

肯定 70% 否定 9% どちらでもない 21%

<個別の意見>

- ・のびのびと過ごすことが出来ており感謝しております。
- ・基礎学力の向上を期待します。
- ・併設中学とのつながる機会を増やしてほしい。
- ・iPad の運用について、活用面を充実させてほしい。
- ・子どもの言葉遣いやマナー面の指導を強化してほしい。

教員アンケート

<集計結果>

①学院の 5 つの Core Values「Life, Truth, Freedom, Goodness, Oneness」を意識し、「世界に貢献できる人材」を育成する教育が実践できていましたか。

肯定 40% 否定 16% どちらでもない 44%

②学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」を礎に、宗教教育を中心とした児童の心を育てる教育が実践できていましたか。

肯定 50% 否定 17% どちらでもない 33%

③ユネスコスクールとしての活動が、学校内全体に浸透させることができていましたか。

肯定 61% 否定 23% どちらでもない 16%

④児童が主体的に取り組む 奉仕活動において、フィードバックを行い、経験を深い学びにつなげるような取り組みができていましたか。

肯定 40% 否定 5% どちらでもない 55%

⑤児童の基礎的な学力の定着を意識して、日々の教育活動を進めることができていましたか。

肯定 56% 否定 0% どちらでもない 44%

⑥本校のアカデミックコースは、イングリッシュコースと差別化できるような魅力を打ち出すことができていますか。

肯定 27% 否定 15% どちらでもない 58%

⑦児童が個人の iPad を用意することで、教育的効果を上げるような授業ができましたか。

肯定 53% 否定 17% どちらでもない 30%

⑧PBL を実施する上で、児童の思考の可視化を意識して指導ができていましたか。

肯定 48% 否定 14% どちらでもない 38%

⑨日々の授業の中で、児童が主体的に活動できる時間を全体の 20%以上確保できていましたか。

肯定 60% 否定 6% どちらでもない 34%

⑩本校の英語教育は、4 技能をバランスよく向上させる内容で進められていましたか。

肯定 50% 否定 10% どちらでもない 40%

⑪モジュールタイムの導入により、英語に触れる機会が増え、定着につなげることができましたか。

肯定 44% 否定 22% どちらでもない 34%

⑫本校の英語教育において、中高と連携して 12 年一貫教育のつながりをもった指導ができていましたか。

肯定 26% 否定 19% どちらでもない 55%

⑬本校のイマージョン教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果がある内容で進められていましたか。

肯定 41% 否定 6% どちらでもない 53%

⑭イマージョン教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。 肯定 43% 否定 14% どちらでもない 43% ⑮挨拶や言葉遣いなど、様々な人とのつながりを意識した指導を、積極的に行うことができていましたか。 肯定 42% 否定 8% どちらでもない 50% ⑯学校行事や奉仕活動において、実施のねらいや目的を、学年に応じて児童に伝えることができていましたか。 肯定 82% 否定 0% どちらでもない 18% ⑰児童・保護者が感動できるような行事になるように指導できていましたか。 肯定 58% 否定 11% どちらでもない 28% ⑱本校の児童が併設中学校へ内部進学したいと感じられるような取り組みを、十分行えていましたか。 肯定 11% 否定 28% どちらでもない 61% ⑲保護者が併設中学校・高等学校に興味を持てるような発信を行うことができていましたか。 肯定 23% 否定 36% どちらでもない 41% ⑳学習ポータルサイトやブログを使って、内部満足度を上げることへつなげられていましたか。 肯定 41% 否定 47% どちらでもない 7% ㉑日々の授業の向上に向けて、学年団や部会等、チームで具体的な検証が実施できていましたか。 肯定 53% 否定 24% どちらでもない 23% ㉒初任者が安心して活動できるように、学年が中心となってチームで取り組むことができましたか。 肯定 57% 否定 14% どちらでもない 29% <個別の意見> ・研修をもっと増やし、道徳教育を増やしたい。 ・基本的な生活習慣の定着に課題の児童への対応をしっかりするべき。 ・学院全体での情報共有をもっとするべき
分析
今年度の結果は、昨年度と比較して肯定的な意見が増加しており、一定の評価を得られたものと捉えている。学校行事が通常開催に戻ったことで、保護者が来校する機会も増化した。一方で、情報発信が保護者の期待に十分応えられていたかについては検証が必要であり、アンケート結果からも課題や改善点が確認された。今後は、情報配信の頻度や質を向上させるとともに、児童が日々感動を味わい、主体的に充実した学校生活を送ることができる取り組みや仕掛け作りを全校で検討し、学校運営の改善に結実させていく。

4. 本年度の取組内容及び自己評価

今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
(1) 授業力向上	①研究研修体制を充実させる。研究研修部が中心となって外部講師をお招きし、研修を増やす。	学期に一回、国・算の授業研究会を実施する。また、公開授業も随時行い、教員の授業力向上に向けた研修を進める。 (判定:○、△、×)	【結果】○ 学期に1回の教科による研究授業を実施することができた。また、ICTを利用して、研究授業内での気づきをその場で共有する取り組みをすることで、リアルタイムで子どもの様子を共有することもできた。
	②PBL の理解を深め、共通した研究テーマで各教員が実践した取り組みを共有する。	PBLの共通理解を深める研修を実施する。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 全体での研修を行うことができなかった。更に回数を増やすための具体案を検討する必要がある。

	③個人用 iPad を活用し、ICT 活用した授業を日常的に進める。	情報担当の教員を中心に、ICT を活用しやすい環境を整えたり、実践を共有できるような研修を計画したりする。 (判定:○、△、×)	【結果】○ どの学年も、iPad を活用した授業は行われるようになった。新任研修の場では ICT の便利な利用方法などを先輩教員による実践報告なども行った。
(2) 英語力強化	①英語モジュールタイムにより、英語に触れる時間を増やすとともに、授業で取り組んだ内容を定着させる。	週当たり 45 分間の英語モジュールタイムを確保し、児童の英語力向上に関する検証を行う。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 英語モジュールタイムの時間は確保できたものの、その成果や内容については検討が必要。普段の授業の単語などの振り返りが不十分なので、強化していきたい。
	②PBL の授業を主体とするイマージョン授業を実施し、教員同士の実践報告を通して授業スキルを高める。	イマージョン授業の授業研を年間で複数回行い、授業の検証を進める。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 全体研修としてイマージョン授業の授業研を行えなかったため、ネイティブ教員の PBL の手法について共有する機会を今後は増やしていきたい。
	③中高のイマージョン部会と連携し、12 年一貫プログラムを構築する。	イングリッシュコースの達成目標を明確にし、12 年一貫体制の展望を持った内容の検証を行う。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 年度初めに小中高の英語科の教員で使用教科書などについての会議を行い情報共有を行った。内容をさらに充実させるためにも更なる会議の機会を増やしたい。
(3) 広報戦略の強化	①募集 80 名を目標とした広報戦略を強化する。	入学者確保に向けて、幼児教室や幼稚園での説明会の実施や住所保有者に対しての定期的な情報発信を行う。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 入試後の辞退者が多く、B 日程、C 日程を実施したが、入学者は目標に達しなかった。辞退者続出の原因の検証が必要。
	②教育活動における様々な場面の発信を行い、内部生の満足度を向上させる。	教員の研修体制、ブログなどによる情報発信、児童交流や保護者説明会等を通して、本校の教育内容の充実度を伝え、満足度向上につなげる。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 各学年、行事の度にブログを上げたが、保護者にしっかりと学校の様子は伝わっていないようにアンケート結果からも伺える。普段の様子や授業の様子もアップできるように各学年に声かけをしていきたい。
(4) 内部進学制度の充実と教員の相互補完	①小学校への内部進学希望者を前年度以上に増加させる。	幼稚園の園長推薦制のさらなる確立や内部保護者対象の説明会を実施し、小学校に関心を向けることで内部進学希望者の増加につなげる。 (判定:○、△、×)	【結果】○ 一定数の入学が見込めるように今後も幼小の連携を進めていきたい。
	②併設中学校への内部進学希望者を増加させる。	小学校の校長推薦制度の改革と中学校授業への体験を実施し、併設中学校に関心を向けることで内部進学希望者の増加につなげる。 (判定:○、△、×)	【結果】○ 昨年度と同様の割合で内部進学者がでた。これからコンスタントに内部進学者が増えるように中高とも連絡を取りたい。
(5) 宗教教育再生・強化	①宗教教育を充実させる。	全校礼拝、各種宗教行事等において、神さまとの対話を通して心身共に健やかに成長させる。 (判定:○、△、×)	【結果】○ 全校礼拝や祈りの集いなどの宗教行事を全校児童が聖堂に集まり、共有の時間を作ることができた。
	②教員に対する宗教研修を実施する。	シスターや外部講師を招いての宗教研修を行い、カトリック校の教員としての理解を深める。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 宗教行事を経験したことがない教員が増えたこともあり、宗教行事前にシスターから職員会議等で丁寧に説明をする機会が多く取れたが、宗教研修をするまでには至っていない。

5. 学校関係者評価

父母の会役員との意見交換では、学校評価アンケートの数値では捉えきれない具体的な評価と改善要望が共有されました。評価をいただいた点として、運動会などで見られた児童同士の思いやりや支え合いの姿勢、スクールモットー「誠実・隣人愛・喜び」の体現、主要教科にとどまらない多様な課題設定による学習習慣の定着などが挙げられました。一方で、今後の改善・充実に期待する声として、次のような意見が出されました。探究的・プロジェクト型学習の充実と積極的な情報発信。発達段階に応じた計画的な性教育の継続実施。iPad の利活用推進。アカデミックコースにおける英語使用機会（他教科への導入）の拡充。連絡ツールの統一などによる幼・小・中高の連携・情報共有の一体化。小学校の iPad を中高でも継続利用できる一貫した ICT 環境の整備。学校側としてはこれらの成果を維持しながら、いただいた意見を検討し教育活動の改善と明確な情報発信に取り組む方針です。